

第33期 第1回 中央公民館運営審議会 議事概要

日時：令和5年7月24日（月） 午前10時～12時

会場：中央公民館 301・302 講座室

出席者：【中央公民館運営審議会】

井上委員、笠原委員、佐藤委員、塩田委員、司山委員、鈴木委員、藤瀬委員、
山田委員、渡辺委員（9名）

【事務局】

渡部館長、伊藤補佐、岡村、野口、八木（中央公民館） 関口館長（関屋地区公民館）
片桐館長（東地区公民館）、原館長（烏屋野地区公民館）

1. 開会
2. 委員自己紹介
3. 職員紹介
4. 議題・報告

（1）議長及び副議長選出

立候補なし、事務局推薦により決定 議長 藤瀬委員 副議長 笠原委員

（2）新潟市の公民館の現状について

【事務局（渡部館長・岡村主幹）】

新潟市の公民館について資料1、公民館の利用状況について資料2、令和5年度の主な予算について資料3により説明

【藤瀬委員】

歳出はそれぞれ事業ごとに前年度・今年度計上されているが、総額では前年度に比べてどうか？

【事務局（岡村主幹）】

合計では少しずつ減っている状況。事業費はコロナの関係で実施が減ったこともあり、反映された予算になっているが、ほかに経費のかからない事業もたくさんあるので事業が停滞しているわけではない。管理費は光熱水費が増えていて、その分が反映されている。

【司山委員】

年々稼働率が減っている理由は？

【事務局（岡村主幹）】

高齢化で団体が少なくなっている。公民館の利用としては30%程度だが、ほかに生涯学習センターとして5割～6割くらい使われている。

(3)令和 4 年度 公民館事業報告

【事務局(渡部館長)】

資料 4 により説明

(4)令和 5 年度公民館基本方針および令和 5 年度公民館事業計画について

【事務局(渡部館長・原館長・片桐館長・関口館長)】

公民館事業の基本方針を資料 5、公民館事業計画を資料 6 にて説明

【藤瀬委員】

基本方針について、これまでと今年度で何か変更点や新しい視点はないということか？

【事務局(渡部館長)】

R2～R6 までの基本方針のため、大幅に変更している部分などはない。基本方針に沿った形で事業を行っていきたい。

【井上委員】

実施報告・事業計画は委員以外にも市民の方が目を通すものか？

【事務局(野口主幹)】

事業などについては「新潟市の公民館」という冊子でお知らせしている。

【井上委員】

R4 の事業実施報告と R5 の実施計画のまとめで各館ごとと施策ごとのスタイルに異なっている記載はわかりにくい。中央公民館の学生連携について、成果があったからこそ、今回も実施していると思うが、前回 4 万 6 千円の予算で約 3 万円の執行額。今回も予算額は変わっていない。今年度はより多くの、あるいは充実した内容で計画しているのか。

【事務局(野口主幹)】

予算額が同額なので上乘せという形にはならないと思うが、予算額めいっぱい何かできるように考えている。

【司山委員】

鳥屋野地区公民館の落語は年代別の講座をお披露目会は合同で実施するというのは、世代間交流として素晴らしい。落語サークルが人気と感じられたのはどういふところか？

利用団体がたくさんある中で、なぜそういうことを試みたのか？

【事務局(原館長)】

当該サークルは普段の稽古などは当公民館で活動しているが、他の公民館や天寿園などから依頼されての活動もしている。子どももターゲットとした落語などの古典芸能に触れる機会がないため、親子で参加してもらえるように個別の声掛けなどをし、募集をかけた。

【司山委員】

高齢化でサークルの人数が集まらないところで、公民館が協力して活動を広げていこうという取組だとわかった。事業ナンバー 19 のコンサートは公民館ではなく別の場所で企画したのか？

【事務局(原館長)】

会場は公民館。予算がないため、県の文化芸術発見事業に応募し、採択されて講師費用などをいただいた。トリオウステリアという日本人3人の女性グループに出演していただいた。そのうち一人は本市出身。4階ホールは古くて音響的にはあまりよくなくて、もったいなかったが、大変好評だった。

【渡辺委員】

中央公民館の父親学級について、昨年度はオンライン開催で夜間は何時からだったのか？対面だとその後繋がったりするが、オンラインでも受講生同士が繋がったりするのか。

【事務局(野口主幹)】

昨年度の開始時間を把握しておらず申し訳ない。R5はオンラインとなっているが、対面という形で始まっている。何組参加か手元にないが、昨年度の受講生に企画委員になっていただいたり16人のうち10数名が来られている。20代から60代までのお父さん、幅広い世代の方に受講いただいている。全6回の連続講座だが、単発でも受けられるものもある。SNS講座が単発だが多く申込をいただいている。

【藤瀬委員】

企画委員4名が主な連携先だがどういう方たちか？

【事務局(野口主幹)】

昨年度の受講生がブラッシュアップした講座を企画してくれた。学びの循環という意味でありがたい。

【藤瀬委員】

父親学級の場合は自分たちでやるというように手が挙がるものか？または、受講生の中から来年度企画委員にお願いできないかという目論見をもって関わっているものか？

【事務局(野口主幹)】

職員が事業に関わっているので、様子を見ながら「この方は積極的に関わってくださっている」という方にお声がけしたり、「楽しかったのでまたやりたいという」お声があればお願いしたりと、様々なパターンがあるが事業を見ながら進めている。

【藤瀬委員】

他の事業でもお願いしたり、必ず企画委員を設けようという取扱いになるのか？それともたまたまそういう方がいた時なのか？

【事務局(野口主幹)】

全ての事業ではないが、その世代の方が考えた方がよりよい事業になりそうなもの、当事者の方たちが企画の段階から加わっていただいた方が、職員だけで考えるよりも素敵なものができるということに関しては企画委員に案を出していただいたりしている。事業によっては活動協力員の方と一緒に考えていただいたりもある。ひよこファミリーらんどは子育て世代の方たちの居場所事業だが来てくださる方たちの中から、スタッフとして関わっていただけないかと声掛けをさせてもらっている。

5. その他

公民館のありかたについて意見交換

【事務局(渡部館長)】

社会情勢、財政状況の変化により、公民館のありかた、役割を分館含め 42 館地区館 25 館の現状の中で公民館職員の気持ちとしては、年代・性別・生活環境問わずあらゆる人・団体をつなぐ施設でありたい。生活における市民満足度向上のきっかけの施設、身近に感じられる施設でありたいと日々事業にあたっている。そのうえで、それが市民の皆様や委員の方と乖離がないかをお伺いしたい。正解・不正解はない。委員の皆様がハード・ソフト問わず公民館にどんな役割を期待しているか、何が足りないと感じているか、議題では無いので審議会としての意見をまとめるといことは考えていないが、参考とさせていただきたい。

【藤瀬委員】

財政状況がひっ迫しているのは伝わってきた。実施される方々としての市が、どの辺が課題と考えているのか、他部署と意見の相違があるのかなどの背景が見えない中での話になるのでピントもずれるかもしれないが、1 つは、全然利用したことがない方、普段の生活の中で「公民館ってあったっけ？」という方にも意見を聞いてみたらどうか？と考える。利用されている方は、財政状況を考えなければあった方がいいとお考えになるだろうし、これだけの事業をきめ細かくやっている実績があるので公民館の必要性は出てくるだろうが、全く関わりのない方たちがどうなのかということに関心を持った。

今日話を聞いて、公民館の大事なところとして、直接の学びの場の提供もさることながら、コロナの時代も経てオンライン学習も進んできて、直接の学びというより、循環をつくる、次のことを意識する、一つ手前のところから、つなぎ・プロセスの段階を見通して事業をすることがとても大事だと感じた。

民間との協働も、もっとも必要になるのでは。民間の建物の中に公民館をつくるのか、必ずしも公の建物ではないところでも場を提供するのはあり得ると思う。

民間の建物に公民館の機能を付設し、ソフト面で維持されることに期待したい。

【笠原委員】

民間施設に公民館の事例で長野で病院が公民館と併設されている。過疎化していて、人が集まる場所、交通の便のいい場所の工夫をしている。利用者を増やすより広げる。人材の掘り起こしは、公民館職員が人とつながらないと人を引っ張ってこれない。知人が民生委員の補助をしていて、ここでスポーツサークルをされていていろんな繋がりがある。そういう人と職員がお茶のみ話などすると妄想が広がってどうでもいい話から価値が広がる。利用者・町内会・PTA 会長などいろんなことを考えているので、出向いて会ってみるのも必要と考える。

【鈴木委員】

利用者の観点として、市報をみると利用サークルの案内が消えた。前は全市の一覧があった。それを見て自分もサークルに入った。コロナ禍も収束し、これから公民館のサークルへ参加しようとする市民もでて来ると思うので、もう一度全市の、せめて隣接区のサークル紹介程度まであってもよいのではないかと。関屋は3人人事異動があった。文化祭経験者0。利用者もリーダーが変わった。どうやって、やればいいのか。そのあたりもちょっと人事の配慮をしてほしい。公民館の場所としての利用、中高生の作品展示の話があったが、例えばコミ協に場を提供して作品を出してもらおうとか、ハードをどう使うかは公民館と離れて考えてもよいのでは。

【山田委員】

ものすごくいっぱいいろんなことをしているが生徒は知ってるかなあと思った。日頃の利用実態がわからず的外れなら申し訳ないが、県の問題として少子高齢化が大きい。対策は若い人を外に出さない。例えばクロスパルに小・中学生のときに来て楽しかった、ここで生活していくと自分の子供もまたここで育ててもいいなという思いを持たせられれば、ほんのわずかでも課題解決に向かうのではないかと。具体的には親子でやれる何かがよいのでは。例えば学校現場でSNSのトラブルが大変な状況。中学校の段階でトラブルがおきても家庭で不十分な面がある。したがってターゲットは小学生の親と子供たち。土日に親子で学ぶSNS講座のようなものがあつたりすると課題解決にも向かえる。お祭りというコンテンツを絡められないか。大きな祭りはにいがた祭りに関わることとか。本町の千灯まつりもある。今年は6千個並ぶ。夜ろうそくに火をつける。寄居中の生徒全員がつくる、それを親子でつくるとかで地域活性化に繋がる。キーワードは親子で。

【渡辺委員】

地域・学生との連携は良いと思う。家庭教育の保育者の立場から言うと、お金がかかるので、小さい子の家庭教育学級は数が減っている。親子で離れてリラックスして学ぶ、子供も親から離れて他の大人と関われる、保育者も子育て中の悩みや介護の悩みを持っている人もいるが、保育に携わることで保育者同士のコミュニケーションからいろんな情報を聞いたり、小さい子と関わって癒されたり、3つが合体した事業と思っている。最近のお母さんたちも企画がないとなかなか集まらない。人とコミュニケーションが取れない。支援センターとか、いろんな所はあるが、行っても輪に入れない。公民館ならではのコミュニティ、公民館だからこそできる事業なので、これからも続けていただきたい。保育者・親・職員からも意見をいただいているので、ぜひここで発表したかった。

【司山委員】

大学生の時からインターンシップで公民館事業に参加してきた。

週休 2 日が始まったときに公民館の活用ということで子供たちとレクリエーションで関わらせてもらったりしていた。公民館は地域にあるものなので、子供たちを安心して通わせることができる場所なのかなというイメージがある。費用も掛からないので公平性・公共性があるものが提供できる。だんだん格差が広がる社会で公民館が公共性の部分で広く学びができる場所として、これからも公民館事業は続けてほしいと思う。公民館事業は地域性と絡んでくる。その地域でどういふものをやると有益なものになるかを、地域の方やさまざまな分野の人と繋がって公民館に積極的に関わってもらえるよう人脈づくりをし、職員が動くというより周りの方々が「こんなことしたら面白いんじゃないか」という風に思ってもらえるような人間関係が構築できると地域と連携して事業が広まっていくということを感じている。

【塩田委員】

赤ちゃんからお年寄までまんべんなくいろんなことをやっていただいて本当に公民館の事業は、ありがたいと考えている。親子で使うという話があったが、お年寄りと子供を結びつけるという事業もあると、すごくお年寄りもイキイキしてくるというのも見ているので、そんな事業もあるといいなと思った。不定期で公民館を使うことがあるが、その時の書類の多さがネックになっている。なんとか A4 一枚くらいで済むようにしてもらいたい。

【佐藤委員】

知らない人が多いのが一番の問題。基本方針は落としどころかと思うが、市民が見てこれを理解するのがすごく難しいと思った。市民の心に響くような公民館のキャッチコピーを作って例えば「知ると楽しくなる」とかシンプルな言葉で公民館アピールをして、それって何？と自分から調べてみたくなる広報をしたらよいのではと思った。

小学校のコーディネーターをしていると子供たちと先生方が忙しすぎる。何かいつも追われて活動しているように見えて、それを感じながらも今年度から地域と児童の委員会とでコラボする企画をたてて、いまやっている。関わってみて分かったことはクラブや委員会の時間が削られていて、そこに地域が割り込む時間もそんなにたくさんないということ。

けれども、そういうところを狙って、学校ではできない・先生方が教えられない、数字で表せないような体験的なものを公民館でできたらいいと思う。

学校での委員会は先生がなるべく介入しない姿を作ろうとしている部分もあるようなので、子供たちが率先して「これやりたい」と思うような企画を公民館が後押しして作り上げるお手伝いをすると、子供たちが逆に大人に対して先生になれたりする充実感、やった感ができていいと思った。シネウインドさんがいらしゃるので映画を作るでもよい。自分たちで物語を作って、映像に落とし込んでみんなに見てもらおうとか、新潟のいいところをどうやって広めたらいいとか子供たちの視点でいいようにつくる。失敗しても成功してもいい。子供が動けば保護者・祖父母・家族が動いて子供たちが作ったものを見たいと思う。そういうところを広げていくと大人もこういうことをしてみたい

という広がりもできる。最初は大変だと思うが子供たちに任せる所は任せて公民館は少しの後押しができるとうい。

【井上委員】

公民館は歴史・地理・産業を学ぶ場だと思う。中央区内でも新潟島・万代・沼垂・烏屋野・関屋と個性ある歴史と地域がある。これらの知識を学び蓄積できるのは、義務教育機関と公民館がもっとも有力であり、逆にいうと公民館以外に、このような地域の蓄積を学ぶ場はないのではと思う。大人や高齢者が公民館で得た知見と子供たちの学習成果とが効果的に組み合わせることが理想と考える。公民館と小・中学校とのさらなる連携や交流機会を増やすべきだと思う。さらに言えば、中央・東・烏屋野・関屋地区公民館に関わる市民が、中央区内の他の公民館の成果を知り、刺激を受けながら交流していけばよりよい。この地域の歴史、地理の学び場としての充実をベースにした上で、現代なりの子育て・若者サポート、大人の余暇の学び、高齢者の IT 活用などを考えてはどうか。子どもにも大人にも公民館以外で学ぶことが難しい地域の歴史と地理への取組を自信をもってそれぞれ進めてほしい。

各公民館とも取組がしっかりされていて誇らしく思った。

公民館同士の交流・知る機会があるのはいいと思うし、自分たちが知ってさらに広まっていくのはいいと思った。地域学についても顔を突き合わせて学ぶのもいいし、カメラやスマホでとったものをウィキペディアのようにどんどん積み重ねていって、ブラッシュアップしていくことも地域学の在り方の一つだと思う。今の形に添った形でもっともっと地域のことを学べる場になっていくとうい。

【事務局(野口主幹)】

小中学校との連携に絡んで、先日寄居中学校の生徒さんが職場体験に来られて父親学級のクイズの問題を作ってくれたり、夏祭りの工作をしてくれたりと大変助かった。皆さんがおっしゃっており、小中学校とさらに連携しながら事業を進めていきたいと思う。

6. 閉会

【配布資料】

新潟市の公民館について	【資料1】
公民館の利用状況について	【資料2】
令和5年度の主な予算について	【資料3】
令和4年度 公民館事業報告	【資料4(1~6)】
令和5年度公民館事業の基本方針及び公民館事業計画について	
・公民館事業の基本方針	【資料5】
・公民館事業計画	【資料6】